

美術ワーキンググループにおける主な論点(案)

本ワーキンググループにおいては、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針: おおむね6年間(平成27年度~平成32年度)を対象期間として策定)、文化政策部会における検討を踏まえ、以下のような事項について検討を行う。

1. 我が国の美術をめぐる現状と課題

- ・国民の美術に関する関心、ニーズ、活動状況(美術館・博物館の入館者、講座実施状況)
- ・アートフェスティバル実施状況、アートマネジメントなどの状況
- ・美術館・歴史博物館を取り巻く環境(学芸員、施設整備など)
- ・国立美術館・博物館等の最近の状況 など

2. 美術分野の方向性

文化芸術基本法を踏まえ、今後、5年間の方向性(グローバル化、国内の多分野にわたる活動の充実、美術分野を支える制度、施策の推進など)

- 美術分野における新たな文化芸術の価値の創造
- 国際文化交流を通じた日本美術の魅力発信
- 美術館・博物館のコレクションの有効活用と充実
- 子供、若者、高齢者、障害者等が参加できる美術に関する文化芸術活動の推進
- 美術館・博物館、図書館等のアーカイブ化と利活用の促進
- 美術館・博物館、図書館等を核とした地域のプラットフォーム形成
- 上記活動を支える美術館・博物館等の環境整備や幅広い専門人材の育成・確保

3. 具体的施策

(1) 国内外を通じた日本美術の魅力発信と新たな文化芸術の価値の創造(美術関係)

(主な基本的な施策の例)

- 質の高い国際的大規模展覧会や美術作品制作等に対する支援の促進
(美術品補償制度を含む)
- 国際文化芸術発信拠点の形成による日本美術等のブランディング戦略の展開
- アート市場を活性化する新たなメカニズム創出
- 地域の美術館・博物館クラスター(文化集積地区)の創出
- 国内外の美術館・博物館等における多言語化推進
- 美術品の公開に係る税制

(進捗状況を測るための指標候補)

- ・日本美術海外展、海外美術作品を活用した展示等の実施状況
- ・国際文化芸術発信拠点、地域の美術館・博物館クラスターの活動状況・波及効果(P)

- ・多言語化の取組状況 など

(2) 子供、若者、高齢者、障害者等が参加できる美術に関する文化芸術活動の推進

(主な基本的な施策の例)

- 地域との協働による子供、若者、高齢者、障害者の創造的活動(参加型プログラム実施等)への支援促進

(進捗状況を測るための指標候補)

- ・ 高齢者の文化芸術活動の参加率 (第4次基本方針での成果指標)
- ・ 国民の鑑賞、鑑賞以外の文化芸術活動へのそれぞれの参加率 (第4次基本方針での成果指標)
- ・ 学級講座等の実施数(社会教育調査)

(3) 美術館・博物館、図書館等のデジタルアーカイブ化と利活用の促進

(主な基本的な施策の例)

- 美術館・博物館におけるデジタルアーカイブ化と利活用の促進
- VR、デジタルアーカイブの共有等によるデジタル技術・情報通信技術の活用の推進

(進捗状況を測るための指標候補)

- ・ 文化遺産オンラインへの美術館・博物館の登録件数

(4) 美術館・博物館、図書館等を核とした地域のプラットフォーム形成

(主な基本的な施策の例)

- 地域における美術館・博物館等を核とした地域文化資源の面的・一体的整備を推進
- 複数の民間団体等との連携による取組を促進

(進捗状況を測るための指標候補)

- ・ 複数の民間団体・機関が連携した事業やプログラムの実施状況

(5) 上記活動を支える美術館・博物館等の環境整備や幅広い専門人材の育成・確保

(主な基本的な施策の例)

- 美術館・博物館、図書館等の充実
- 美術館・博物館等の専門人材の養成・研修
- ナショナルセンターとしての国立美術館・博物館の機能強化
- 学校教育における文化芸術教育(美術館・博物館との連携など)
- NPOやボランティアを含む地域の文化芸術活動の担い手の育成
- アートマネジメント人材、技術者等の多様な人材の確保・育成

(進捗状況を測るための指標候補)

- ・ 国民の鑑賞、鑑賞以外の文化芸術活動へのそれぞれの参加率 (第4次基本方針での成果指標)
- ・ 美術館、博物館、図書館等文化施設の入場者数・利用者数
- ・ 美術館・博物館等の文化施設における専門的人材の配置状況等